

【現状説明】

《大学院》

共通	各研究科では主に、栄養科学研究科は大学、教育学研究科は教育機関、流通科学研究科においては、小売業等に就職しています。
----	--

《大学》

栄養科学部	栄養科学科については、管理栄養士（栄養士含む）での就職者が 68.5%（1.2%増）増加しました。就職先の主な内訳は受託給食会社、食品関連企業、ドラッグストア等です。また、病院・医院への就職者が 47 名（前年度 26 名）となりました。その他、公務員合格者が 15 名おり、行政（管理栄養士）、家庭科教諭などに就職しています。また、企業決定者でも、食産業への就職が多いのが特徴です。 フード・マネジメント学科については、約 7 割が食品を取り扱う企業へ就職決定しました。業種別に見ても、製造から卸小売、飲食関連企業と幅広く、企業規模も多岐に渡っている。就職決定先企業を所在地別に見ると、多くの企業が九州圏内の地場企業だった。また、職種も総合職、営業、商品開発、製造、公務員（厚生労働省食品衛生監視員）など多岐にわたる
教育学部	主に小学校教員や幼稚園教諭、保育士などの専門職としての就職を目指す本学部では、就職決定者のうち 87.4%が専門職の進路を選択しました。 教員採用試験では受験者 141 名中、実数で 120 名が現役合格を果たし、幼稚園教諭・保育士、保育教諭として 73 名が就職、うち公務員が 5 名となっています。
流通科学部	決定率は、98.4%と昨年から微減しました。卒業生に対する就職率は 91.5%となっています。職種別の内訳では総合職の割合が全体の 47%と最も高く、続いて営業職 21.5%、事務職 14.6%、サービス職 3.6%の順でした。金融機関や卸小売業、メーカー、公務員など幅広い分野に就職しています。

《短期大学部》

食物栄養学科	就職希望者のうち、栄養士としての就職は約 74.6%となっております。栄養士のうち保育園の割合（40.6%）が高く、次いで病院、受託給食となっています。その他、19 名が進学（4 年制大学への 3 年次編入）をし、管理栄養士免許取得を目指しています。
キャリア開発学科	決定率は 100%となり、卒業生から進学者を除いた就職率は 93.4%となっています。内訳では総合職 31.9%、事務職 23.0%、営業職 15.9%の順でした。就職先は例年通り 大手企業や地元企業へ就職者も多数輩出しました。卒業生のうち、17 名が進学（4 年生大学への 3 年次編入）をしています。
幼児保育学科	就職決定率 12 年連続 100%と大変好調です。就職決定者のうち 94.9%が幼稚園教諭、保育士、保育教諭に就き、専門職就職率の高さが示されました。職種別割合は幼稚園教諭 28.9%、保育士 52.3%、保育教諭 13.7%となっています。卒業生のうち 10 名が進学（4 年制大学に 3 年次編入）をしています。